

【報告事項1】 2018（平成30）年度事業報告の件

1) 2018年度国際会議開催

2018年12月12日から14日の3日間、一般社団法人映像情報メディア学会（ITE）と The Society for Information Display（SID）の共同主催で、名古屋国際会議場にて第25回ディスプレイ国際ワークショップ（IDW'18）を開催した。キーノート講演としては、まず、視覚特性の専門家である横浜国立大学の岡嶋克典教授が、車載用ディスプレイ応用に向けた運転中の視覚特性について「Human Visual Processing in Driving」と題してご講演いただいた。その後、有機ELによる大判TVを世界で初めて商品化し、生産設備への大型投資を決定してこの分野で世界を牽引するLG DisplayのSoo Young Yoon氏に「OLED, Change Your Lifestyle」と題してご講演いただいた。最後に、Hapticsの分野で著名なノースウェスタン大学のEd Colgate氏に「Touching with Feeling: Integrating Haptics with Touch Displays」と題してご講演いただいた。発表論文数は469件（昨年456件）と昨年より13件増加したが、参加者数は1,376（昨年1,296名）と昨年より80名増加した。開催費用は、63,796,466円（決算値）であった。

2) 中長期的検討

昨年度から引き続き中長期的なIDWの運営の議論を実施した。2018年度は5月16日、8月2日、10月24日、3月8日に委員会を開催した。各委員会の決定事項をまとめると、下記のとおりである。

[5月16日]

- ・新たな表彰制度を設立することが決定。賞の名称には、IDW初代三役の名前を入れることが決定。
- ・新投稿システムの導入準備委員会を発足したことが報告された。
- ・IDW開催地を4か所でローテーション化することが決定した（札幌、福岡、新潟、大津）
- ・科研費の申請は、来年も継続することが決定した。

[8月2日]

- ・IDW'18のオープニングで、IDW初代三役に感謝状を贈呈することが決定した。
- ・新投稿システムを法人としてAtlas社と契約し、新投稿システムの立ち上げを新投稿システム準備委員会に委任することで合意した。
- ・IDW開催地を、2020年を福岡とし、2021年を新潟とし、会場ローテーションの順番を（札幌、福岡、新潟、大津）とする。

[10月24日]

- ・新たに設立する表彰の名称は、“Kobayashi-Uchiike-Mikoshiba Prize”に決定した。
- ・非常事態のIDW中止のプロセスについて審議した。組織委員会発行の『非常事態発生時のIDW開催について』における、非常事態発生時の対応プロセスをより明確

にした規定に見直すことが決定した。

[3月8日]

- ・次期中長期計画検討委員会委員長について審議した。2019年度中長期計画検討委員会委員長は、奥村治彦理事を推薦することが決定した。
- ・IDW'20三役の提案について審議した。組織委員長につき、第2候補まで決めた。第1候補の方に打診中。実行委員長、プログラム委員長は、次期組織委員長との合議で決めるが、複数の候補者名を挙げた。
- ・新表彰制度“Kobayashi-Uchiike-Mikoshiha Prize”のIDW'19での表彰方法について検討を行った。新表彰制度の募集案内と表彰規則を作成することが決定した。
- ・中長期課題であるWS、Scopeのあり方について議論を行った。中長期計画検討委員会だけでなくWSの意見も反映するために今後中長期+WS代表会議を開催することで合意した。

3) 会員関連

i) 賛助会員

2016年度における賛助会員数の推移は次の通り。

- ・2014年度の賛助会員数：8社
- ・2015年度の賛助会員数：7社
- ・2016年度の賛助会員数：8社
- ・2017年度の賛助会員数：8社
- ・2018年度の賛助会員数：8社

ii) 社員

2018年度における社員数の推移は次の通り。

- ・2018年4月での社員数：61名
- ・2018年度の増減：入社：2名、退社：5名
- ・2019年4月17日現在の社員数：58名

iii) 準社員

2018年度における準社員数の推移は次の通り。

- ・2018年4月での準社員数：0名
- ・2018年度の増減 増：5名、減：0名
- ・2019年4月17日現在の準社員数：5名

以上